

令和 6 年 4 月 1 6 日
大臣官房参事官(イノベーション)
大臣官房公共事業調査室

「i-Construction 2.0」を策定しました

～建設現場のオートメーション化による生産性向上（省人化）～

国土交通省では、建設現場の生産性向上や業務、組織、プロセス、文化・風土や働き方の変革を目的として、i-Construction 及びインフラ分野の DX を推進しています。

今般、i-Construction の取組を加速し、建設現場における省人化対策に取り組むため、国土交通省の新たな建設現場の生産性向上（省人化）の取組を「i-Construction 2.0」としてとりまとめました。

国土交通省では、建設現場の生産性向上の取組として、2016 年度より、ICT 施工をはじめとする「i-Construction」の取組を進めてきました。

(参考) 国土交通省における i-Construction の取組 <https://www.mlit.go.jp/tec/i-construction/index.html>

今後、更なる人口減少が予測されるなか、国民生活や経済活動の基盤となるインフラの整備・維持管理を、将来にわたって持続的に実施していくことが必要であることから、「国土交通省インフラ分野の DX 推進本部」（本部長：技監）において、これまでの取組をさらに一歩進め、「i-Construction 2.0」として別紙のとおりとりまとめました。

i-Construction 2.0 では、2040 年度までに建設現場の省人化を少なくとも 3 割、すなわち生産性を 1.5 倍向上することを目指し、「施工のオートメーション化」、「データ連携のオートメーション化」、「施工管理のオートメーション化」を 3 本の柱として、建設現場で働く一人ひとりが生み出す価値を向上し、少ない人数で、安全に、快適な環境で働く生産性の高い建設現場の実現を目指して、建設現場のオートメーション化に取り組みます。

以下 URL に i-Construction 2.0 の本文を掲載しております。

i-Construction 2.0～建設現場のオートメーション化～

<https://www.mlit.go.jp/tec/constplan/content/001738240.pdf>

【お問い合わせ先】

大臣官房参事官（イノベーション）グループ

企画専門官 梶谷、課長補佐 中根、企画官 伊藤（内線 22308, 22434, 22362）

代表：03-5253-8111 直通：03-5253-8285

大臣官房公共事業調査室 課長補佐 佐藤（内線 24296）

【背景】

- ◆ 2040年度には**生産年齢人口**が約2割減少
 - ◆ **災害の激甚化・頻発化、インフラの老朽化**への対応増
- ➡ インフラの整備・管理を持続可能なものとするため、より少ない人数で生産性の高い建設現場の実現が必要

【i-Construction 2.0 で目指す姿】

<i-Construction>
ICTの活用による支援



<i-Construction 2.0>
自動化・省人化（**建設現場のオートメーション化**）

【i-Construction 2.0の3つの柱】

① **施工のオートメーション化**

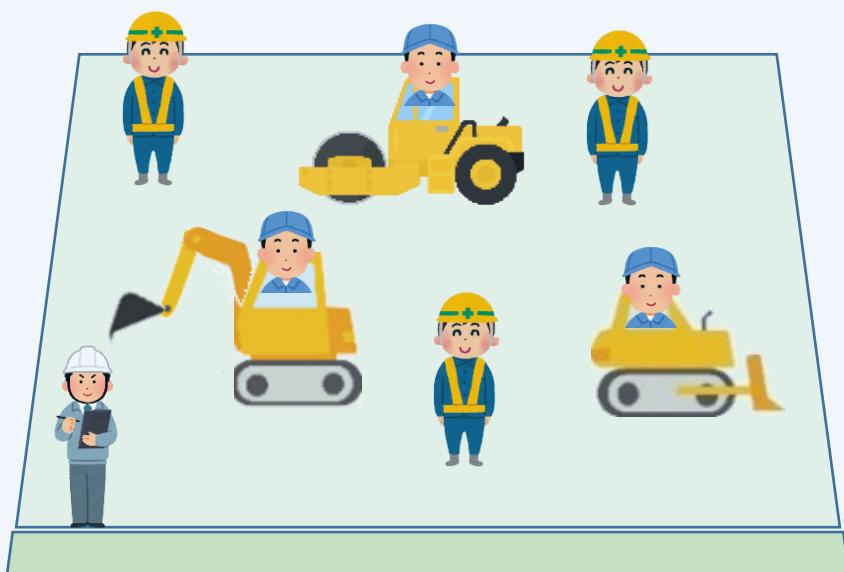
② **データ連携のオートメーション化**
(デジタル化・ペーパーレス化)

③ **施工管理のオートメーション化**
(リモート化・オフサイト化)

【目標】 **2040年度まで**に建設現場において**少なくとも省人化3割** すなわち、**生産性1.5倍**に向上
多様な人材が活躍でき、**未来へ前向きな新3K**(給与、休暇、希望)を**建設現場で実現**

<施工のオートメーション化のイメージ>

現在



将来の目指す姿

施工の自動化により、一人のオペレーターが複数の建設機械を遠隔で管理

